

あいさつ

私ども曾於やごろう短歌会は、永田三郎氏や華短歌会の協力を得て、鹿児島県内の高校生から短歌を募集、優れた作品を選ぶ「鹿児島県高校生短歌大賞」を昨年創設、準備を進めてきました。伝統詩である短歌の魅力を発信するとともに若い才能を見いだし、育ててみたいという思いがあります。

第1回短歌大賞の募集は今年5月スタート、8月末に締め切りました。初の試みながら学校単位で、あるいは個人で応募していただき、たくさん作品が集まりました。皆さんにあらためてお礼申し上げます。

10月3日、4人の選考委員がオンラインで選考会を実施。公正を原則に大賞、優秀賞など各賞を確定しました。短歌の魅力と可能性を内包した優れた作品を選ぶことができたと自負しています。

応募していただいた皆さんは今回の作歌を機に、1300年以上の伝統を誇るこの短歌を人生のたしなみや喜びとして作り続けていってほしい、と希望します。皆さんの人生をより豊かなものへと変えてくれる魔法の杖だと信じているからです。

曾於やごろう短歌会会長兼第1回鹿児島県高校生短歌大賞実行委員長

外前田 孝

◇ 応募校・歌数と選考経過 ◇

応募校（応募数順）

| | | |
|---------|--------|---------|
| 鹿児島女子高校 | 曾於高校 | 鹿児島第一高校 |
| 蒲生高校 | 南大隅高校 | 鹿児島情報高校 |
| 樟南高校 | 出水工業高校 | 薩摩中央高校 |
| 鹿児島実業高校 | 鶴丸高校 | 松陽高校 |
| 武岡台養護学校 | | |

計 13 校

応募人数 = 1,378 人

応募歌数 = 2,533 首

【選考経過】

歌人の桜川冴子氏、大口玲子氏、森山良太氏と外前田孝の4人の選考委員が10月3日、オンラインで選考会を実施。各自選歌した20首をもとにして得点順を基本に選評をしながら大賞（賞金5万円）、優秀賞（賞金3万円）、優良賞（賞金2万円）各1点、選者賞（賞金5000円）4点、佳作（賞金3000円）5点、奨励賞9点を決めました。その上で、入賞者数をもとに学校賞を確定しました。

◇ 選考委員紹介 ◇



桜川 冴子氏 (歌人・結社「かりん」所属)
主な歌集に『月人壮子』『さくらカフェ本日開
店』など。

【代表歌】先生は薔薇のやうだと去りし子よ花の
部分か棘の部分か 『月人壮子』
「先生が頼りです」なんて言はれをりどうかなあ
吾は吾さへ裏切る 『キットカットの声援』

大口 玲子氏 (歌人・結社「心の花」所属)

1998年、「ナショナルリズムの夕立」で角川短歌
賞、2012年、歌集『トリサンナイト』で若山牧
水賞を受賞。他の歌集に『海量(ハイリヤン)』『自
由』など。

【代表歌】形容詞過去教へむとルーシーに「さびし
かった」と二度言はせたり 『海量』
学校に行かなくてもよいが勉強はすべしと思ふ
自由のために 『自由』



森山 良太氏 (歌人・結社「華」主宰)
2005年、「闘牛の島」で角川短歌賞受賞。歌集
に『西天流離』。

【代表歌】空転と呼ぶな若さを 俺は今、中央分
離帯に乗り上げてゐる
揺れるたびに揺るる乳房の膨らみも、おまへも、
夏の牧も我がもの

外前田 孝 (歌人・結社「かりん」所属、「曾於
やごろう短歌会」会長)

【代表歌】つややかな闇をまとえる鋏形を少年なら
ぬ指に愛撫す
呑みて吐き吐きては呑みぬ記者われは川に潜りし
鵜の行方追う



◇ 記念講演講師紹介 ◇



吉川 宏志 氏

(よしかわ・ひろし)

1969年、宮崎県生まれ。南日歌壇選者・永田和宏氏の後を継いで「塔短歌会」主宰に。

1996年、第1歌集『青蟬』で現代歌人協会賞。第7歌集『鳥の見しもの』で若山牧水賞、第8歌集『石蓮花』で斎藤茂吉短歌文学賞に輝くなど受賞歴多数。

代表歌

花水木の道があれより長くても短くても愛を告げられなかった 『青蟬』

風を浴びきりきり舞いの曼殊沙華 抱きたさはときに逢いたさを越ゆ 『青蟬』

背を向けてサマーセーター着るきみが着痩せしてゆくまでを見ていつ 『青蟬』

死ぬことを考えながら人は死ぬ茄子の花咲くしずかな日照り 『夜光』

新しい絵を知るような逢いありて眉がしずかな人とおもいき 『曳舟』

拍手するみずからの手を見ていたりイエスは拍手をせしことありや

『鳥の見しもの』

夏つばき地に落ちておりまだ何かに触れたきような黄の蕊が見ゆ 『石蓮花』

第一回鹿児島県高校生短歌大賞の選考結果

大賞

心まで乾燥しきった劇場でいくつかの頬だけが湿った

鶴丸高校1年 加藤 遥希

優秀賞

迫りくる明日の手から逃げようと立ちこぎをする夏の夕暮れ

鹿児島第一高校1年 高田侑衣芽

優良賞

タマ、僕らみたいにくまく言い訳ができない口であくびをしてる

松陽高校1年 里山 璃空

選者賞

(桜川冴子選) 空を見て貴方に想いを馳せるとききつと貴方は海を見ている

蒲生高校2年 是枝 美咲

(大口玲子選) 桜島フェリーの屋上今日もまた失敗丸めてポイツと捨てる

鹿児島女子高校3年 山下 里菜

(森山良太選) ひとめぼれ信号待ちのあなた見てこころ打たれた午後六時二分

鹿児島情報高校3年 上木原さくら

(外前田孝選) 本塁へすべりこみたい君のもと私の心すでに満塁

曾於高校3年 四本 あみ

佳作（5人）

濡れ髪のノートに滲む水滴の風にまぎれる塩素の匂い

蒲生高校2年 肥後 漣斗

夏の夜君に想いを伝えるとやつと聴こえる波のざわめき

南大隅高校2年 松本 健

毎朝の目覚ましのごとき牛の声作業着がえかけぬける風

曾於高校1年 松元 孝太

恋なのか恋じゃないのかなんなのか分からないままもう卒業か

鹿児島第一高校1年 東 貴悠

おぼろげなかすむ足元照らす夜だれかのための月になりたい

武岡台養護学校1年 谷 樹里亜

奨励賞（9人）

甘いのに苦い夜食の父のカレー含んだ口はごめんが言えず

曾於高校2年 黒崎 楓夏

教室で横を見るたび消火栓赤いランプがともっているよ

樟南高校3年 谷畑 灌昇

夏の青空白い砂浜青い海すべてが君のひきたてやくだ

出水工業高校2年 牧尾 魁徒

夕方の住宅街に響いてるうちの笑いはやくせ強め

鹿児島女子高校3年 森 空弥

好きですの言葉が喉に詰まっているもう炭酸で流してしまおう

曾於高校2年 高井田真理沙

清水の景色を眺め思い出す検非違使忠明飛び下りたこと

鹿児島第一高校2年 樋口 颯太

帰宅用プレイリストをたれ流し過ぎてく景色の遠くをにらむ

鹿児島女子高校2年 遠藤こはる

何もかも「効率、効率。」LED月のうさぎも見えなくなつた。

鹿児島第一高校2年 川添 慶斗

1人でも着られるようになった浴衣それでも祖母に着付けてもらう

鹿児島情報高校3年 宮島 花凜

学校賞（2校）

曾於高校

鹿児島第一高校

短歌に詠まれた青春

心まで乾燥しきつた劇場でいくつかの頬だけが湿った

鶴丸高校 加藤 遙希

誰かを思う心が、空と海を背景におおらかに詠まれています。好きな人はきつと自分とはタイプが違うのでしょう。私が空を見て恋しく思うとき、相手は海を見ているような人。そのズレがよくて、味わい深く思っています。この歌のもつ色彩感、広大さ、空を映す海としての相手の存在……ゆたかな作品世界の広がりを感じます。

タマ、僕らみたいになまく言い訳ができない口であくびをする

松陽高校 里山 璃空

毎朝の目覚ましのごとき牛の声作業着がえかけぬける風

曾於高校 松元 孝太

この歌の劇場を私は青春の日々と解釈しました。幼い子どもにはもう過ごせない。生きていく困難はさまざまにありますが、ことに青春の日々において、人間関係の難しさにあると思います。我慢して時には仮面を被り、時には心を裸にして傷つきながらも明日に向かつて生きる一人の人間像が見えてきます。人生劇場の青春編の只中にあるのでしょうか。勿論、短歌は創作ですから、事実とは限りません。短歌の作中人物としての私は、心まで乾燥しきつている。そんな私の痛ましさに気がついて共に涙を流してくれる人が僅かにいるのです。ここにこの歌の救いがあり、私は心を打たれました。

空を見て貴方に想いを馳せるとききつと貴方は海を見ている

蒲生高校 是枝 美咲

一首目からは、あくびする猫のタマを通じて、人間の小賢しい生き方が見えてきます。作者の人間に対する批評精神が活きている歌で、魅力を感じました。二首目は、牛の声で目覚める朝、颯爽と走って牛小屋に向かう作者像が彷彿と浮かんできます。鹿兒島の風土は高校生作品にも影響があり、全体として向日性を帯びたものが多く、それぞれに个性的でよかったです。

■ 心まで乾燥しきった劇場でいくつかの頬だけが湿つた

鶴丸 加藤 遥希

「いくつかの頬だけが湿つた」というドライな表現で「涙」を歌っているのに驚いた。感情や感傷と距離を置き、つぶやくような醒めた口調に徹したところに個性がある。

■ 迫りくる明日の手から逃げようと立ちこぎをする夏の夕暮れ

鹿第一 高田侑衣芽

高校生が勉強や部活に追われて立ち止まる余裕がないことは他の応募作からも感じたが、高田さんの歌からは特に閉塞感が伝わってくる。場面が見え、動きのある下の句が印象的。

■ 桜島フェリーの屋上今日もまた失敗丸めてポイントと捨てる

鹿女 山下 里菜

通学でフェリーを使っているのだろうか。フェリーの屋上から海を眺めるたびに自分を更新して、前向きに生きていく姿勢にひかれた。下の句が爽快で素晴らしい。

■ 恋なのか恋じゃないのかなんのか分からないままもう卒業か

鹿第一 東 貴悠

リズムカルに呟くような文体と、哲学的な内容のギャップがおもしろい。「〜か」で終わる問いかけをたたみかけるように重ね、最後で卒業という別れの切なさに展開するのが見事。

■ 帰宅用ブレイリストをたれ流し過ぎてく景色の遠くをにらむ

鹿女 遠藤こはる

学校から帰る電車の中、イヤホンで好きな音楽を聞きながら窓の外を見ているのだろう。「たれ流し」「にらむ」の動詞の選択が光る。車窓から見る景色に不思議な奥行きを感じた。

■ 1人でも着られるようになった浴衣それでも祖母に着

付けてもらう

鹿情 宮島 花凜

自分の成長と祖母への愛情が、過不足ない的確な表現で歌われている。とても巧みな一首。

選外となったが印象に残った作品を二首あげる。

■ 溶接部クローラー無いし暑苦しいけどカッコイイ俺は作業着

曾於 花牟禮龍我

■ 帰りたいひさしぶりに母国へと今年は絶対帰りたい

出水工 高橋チトルシアノ

生徒作品のきらめき

生徒作品を読んで出会うことのできたきらめきのいくつかについて述べる。

ひとめぼれ信号待ちのあなた見てこころ打たれた午後六時二分

鹿児島情報高校3年 上木原さくら

恋と雷は似ている。イケメンに心奪われた時刻「午後六時二分」に嘘はないと感じた。

夏の夜君に想いを伝えるとやつと聴こえる波のざわめき

南大隅高校2年 松本 健

告白の後、それまで聞こえなかった波や周囲の音が戻ってきた。「やつと言えた」ことを「やつと聴こえる」と表現した点が魅力。

夕方の住宅街に響いてるうちの笑いはややくせ強め

鹿児島女子高校3年 森 空弥

帰宅途中に恋バナでもしたのか。静寂を破る笑い声の「ややくせ強め」が楽しい。

教室で横を見るたび消火栓赤いランプがともっているよ

樟南高校3年 谷畑 瀧昇

嫌いな教科か。廊下を見る作者が気づいた、消火栓の「赤いランプ」。孤独に耐え黙々と働き続ける姿への共感か、自己投影か。

昼寝する父の姿に背を向けてこっそり探したブランケット

鹿児島第一高校2年 大坪 克暢

親子関係の作品の中で最も惹かれた一首。父のために、黙ってブランケットを探す作者の優しさに打たれた。さり気ないがよい歌だ。

飛行機で上から眺める人道雲時間はオーペンキャンパス

鹿児島第一高校2年 前田ひなは

機窓からの人道雲。未来への俯瞰と期待感を「上から眺める」の表現に感じた。

顔の汗マスクを取って拭くしかない嫌だな顔の洋服なのに

鹿児島女子高校2年 中迎 愛果

マスク生活が続き、外すのが恥ずかしく思えるのだ。「顔の洋服」という表現が斬新だ。

柔軟な感性とユニークな視点

選歌が大変でした。これはと思う優れた作品が30首近くに上り、絞り込みに苦労したからです。「アオハル（青春）」にふさわしい恋の歌（相聞歌）や学校生活の歌、あるいは友達や家族の歌がたくさんありました。柔軟な感性とユニークな視点に裏打ちされた面白い表現に惹かれました。ぼくが候補作として挙げた歌の中から数首紹介します。

本望へすべりこみたい君のもと私の心すでに満望

曾於高校 四本 あみ

野球の歌と思わせて、実は相聞歌という仕掛けが見事だと思いました。なかでも下の句に気持ちちがこもっています。ここでワンヒットがあったりスクイズが決まれば、ホームにすべり込めるわけです。つまり、恋を成就するためのきつかけを作者は欲しているのです。

迫りくる明日の手から逃げようと立ちこぎをする夏の夕暮れ

鹿児島第一高校 高田侑衣芽

やらなければならぬ宿題など勉強に迫られているの

でしょう。面白いのは「明日の手」という比喩的表現（未来）にあるものから「逃げようと」する逆の発想と切迫感、そしてそのための行動が「立ちこぎ」。立ちこぎゆえに必死さが伝わってきます。

濡れ髪のリートに滲む水滴の風にまぎれる塩素の匂い

蒲生高校 肥後 漣斗

「の」の連なりのためか、調べがとてもいい。和歌を読んでいるようです。一首を最後まで読むと、水泳の授業が終わり、教室で別の授業を受けている光景が目に見えます。

夏の青空白い砂浜青い海すべてが君のひきたてやくだ

出水工業高校 牧尾 魁徒

夏の海を表すときの平易な決まり文句がちりばめられているのに、少しも陳腐ではありません。下の句の「殺し文句」に心を打たれました。「君」に恋をしているのでしよう。

甘いのに苦い夜食の父のカレー含んだ口はごめんが言えず

曾於高校 黒崎 楓夏

二律背反の気持ちが出てくる歌です。夜食を作ってくれる父と和解がしたいのです。

第1回 鹿児島県高校生 短歌大賞

花水木の道が
あれより長くても短くても
愛を告げられなかった

吉川宏志



短歌作品募集

趣旨

多感な高校生の詩的感性を豊かにはぐくみながら、若い才能を発掘するとともに、短歌という伝統詩の裾野を広げ、未来に継承するため、県内の高校生の短歌作品を募集する。

募集期間

2022年5月1日～8月20日(当日消印有効)

募集内容

1人3首まで(テーマは自由、未発表に限る)

応募方法

400字詰め原稿用紙の右側半分に短歌を、左側半分に郵便番号、住所、氏名(ふりがな)、高校名、学年、電話番号を書いてください!
※応募作品は返却しません。

応募先

〒899-8601 鹿児島県曾於市末吉町岩崎 5438-2
ゲストハウスやごろう内、鹿児島県高校生短歌大賞係

授賞式兼大会

▽日時 = 2022年11月20日午後1時～

▽会場 = 曾於市・大隅町文化会館

▽記念講演 = 吉川宏志氏(歌人・京都市)

各賞

▽最優秀賞(1席) = 5万円 ▽優秀賞(2席) = 3万円

▽優良賞(3席) = 2万円 ▽各選者賞 = 5,000円(4人)

▽佳作 = 3,000円(5人)

選考委員



大口玲子氏
(歌人・宮崎市)



森山良太氏
(歌人・鹿屋市)



桜川冴子氏
(歌人・福岡市)



外前田孝氏
(歌人・曾於市)